

2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 17 年 1 月 28 日

I 概要

実践団体・担当者名	愛知県西尾市立花ノ木小学校・花小PTCA会議(担当者: 沓名良夫)	
連絡先	愛知県西尾市高畠町6丁目1番地 0563-57-2658	
プランタイトル	2004地震防災プロジェクト in 花ノ木	
目的	学校、PTCA会議が中心となり、地域を巻き込んで、防災教育、避難訓練や被災したときの対処方法を学ぶことで、児童、保護者、地域の防災意識の高揚を図る。	
プランの概略	地震発生を想定して、自分の住んでいる地域から、児童、保護者、地域住民が一緒に安全確認をしながら学校まで避難する。避難してきてから、学校内で防災講座を受けたり、体験したりする。 8:30～ 9:30 地域の集合場所から学校まで避難 9:30～10:00 防災訓練開始行事 10:00～12:00 体験講座 体験訓練 12:00～12:45 非常食体験 12:45～13:15 防災訓練閉会行事 13:15～13:30 児童引き取り訓練	
プランの対象と参加人数	花ノ木小学校児童・保護者 花ノ木小学校校区民 ボランティア団体 行政関係者 教育関係者 等 1500名	
実施日時	2004年10月30日	
主な実施場所	西尾市立花ノ木小学校 花ノ木小学校学区	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①警察署②消防署③市役所④町内会⑤交通安全推進協議会 ⑥社会教育推進協議会⑦災害ボランティア会議⑧市民消防隊 ⑨子ども110番の家⑩西尾中学校⑪花ノ木保育園
	連携したきっかけ・理由	①PTCA会議を通して、地域住民、子どもたちの安全、幸福のために協力していただいている。 ②花ノ木小学校の児童、保護者だけでなく、広く地域の人々に参加していただき、防災意識を高めたかったため。
	連携団体へのアプローチ方法	①PTCA会議を通して、常時一緒に活動している。 ②訪問をし、防災フェスタの趣旨を説明して賛同をしていただいた。
	連携団体との打合せ回数	2時間×10回
	連携団体との役割分担	防災フェスタ内容の企画・広報手段についての相談をした。

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5 名
	外部スタッフの総人数	3 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 鈴木 俊貴（PTCA会議座長） 企画 村松 利孝（PTCA会議防災担当） 沓名 良夫（花小職員 PTCA会議事務局） 村松 文治（代表町内会長） 渉外 齋藤 裕史（PTA会長） 杉浦 久男（花小教頭） 広報 宮地 正彦（PTA副会長） 板倉 政美（花小職員）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2003 年12 月 ～2005 年2 月
	立案時間	12 時間
	上記のうち打合せ回数	2×3 回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○ 地域住民の参加がより増え、防災教育の浸透を図りたい。 ○ 体験講座、体験訓練の数を増やして、参加者により多く体験してほしい。 ○ 立案することを通して、各団体の連携が深まるようにする。	
プラン立案で 苦労した点	○ いろいろな団体と連携しているため、会議の日程を調整するのに苦労した。 ○ 1500名近くの人が、より多く防災教育を受けられるために、体験講座、体験訓練の数を増やすことに苦労した。	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5 名
	外部スタッフの総人数	4 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 鈴木 俊貴（PTCA会議座長） 企画 村松 利孝（PTCA会議防災担当） 杵名 良夫（花小職員 PTCA会議事務局） 村松 文治（代表町内会長） 牧野 明広（災害ボランティア会議） 渉外 齋藤 裕史（PTA会長） 杉浦 久男（花小教頭） 広報 宮地 正彦（PTA副会長） 板倉 政美（花小職員）
準備に要した日 数・時間	準備期間	2004 年 3 月 ～10 月30 日
	準備総時間	80 時間
	上記の内打合せ回数	9 回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	愛知県教育委員会 西三河教育事務所 西尾市教育委員会 西尾小学校、西尾中学校、花ノ木保育園
	どのように働きかけたか	電話で依頼するとともに、案内状を郵送した。
	結果	市内校長会で紹介してもらった。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	① 西尾市町内会②西尾市自主防災会③西尾市市民消防隊 ④ 子ども110番の家⑤校区婦人会
	どのように働きかけたか	PTCA会議に出席を依頼した。インターネットで参加呼びかけをした。
	結果	案内状の配布、防災フェスタの参加に協力してくれた。
護者・PTAへの 働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	① 花ノ木小PTA ② 西尾中学校PTA ③ 花ノ木保育園PTA
	どのように働きかけたか	PTCA会議に出席を依頼した。
	結果	保護者会で案内状を配布、参加の呼びかけをしていただいた。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○機材：スクリーン プロジェクター ○教材：家具転倒防止装置、地震体験装置、防災グッズ 防災カルタ
	入手先・入手方法	○機材：花ノ木小学校所有物 ○教材：家具転倒防止装置、地震体験装置は借用（有料） 防災カルタ、防災グッズ購入（有料）
	機材・教材選定の理由（な ぜこの機材・教材を選ん だのか）	○機材：防災について、視覚に訴えた方が効果が上がると考えた。 ○教材：実際に目で見たり、触れたり、体感した方が、話だけより効果が上がると考えた。

参加者の募集	募集方法	① 前述の教育関係、地域、保護者への案内状配布 ② インターネットによる呼びかけ
	募集期間	2004年9月中 ～10月30日
	参加予想人数	1600 名
	実際の参加人数	1500 名
	募集方法の成功点	○ 地震啓発チラシを全町内に8月に配布し、その後案内状の配布と2回行ったために、より徹底できた。 ○ 花小学区の全町内に案内状を回覧したために、防災フェスタの内容が徹底できたので、参加意識が高まった。 ○ 授業参観で防災の授業を公開したり、PTAの会合などを利用して防災について訴えてきたので、防災について関心が高まっていた。 ○ 中越地震が起きた直後ということもあって、地域住民に防災意識が高まっていたことも幸いであった。
	募集方法の失敗点	○ 一部の町内で、秋の祭礼と重なってしまったために、参加人数がやや少なくなってしまった。
準備で苦労した点・工夫した点		○ 体験講座、体験訓練を多くの人に経験していただくために、どんな教材、内容を準備したらよいかを見つけるのに苦労した。

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月			
12月	○ 12/10 第1回打合せ 「実施内容について」		
2004 1月	○ 1/9 第2回打合せ 「企画書」の作成 ○ 1/27 第3回打合せ 「申請書」の作成		
2月			
3月			
4月		○ 4/27 第4回打合せ 「連携団体について」	
5月		○ 5/21 第5回打合せ 「防災フェスタ実施内容」について	○ 先進地域視察報告会
6月		○ 6/25 第6回打合せ 「防災フェスタ役割内容」について	○ 防災授業の公開
7月		○ 7/16 第7回打合せ 「体験講座、体験訓練場所」について	
8月		○ 8/6 第8回打合せ 「参加者の募集方法」について ○ 8/30 第9回打合せ 「スケジュール」について ○ 地域への働きかけ	
9月		○ 9/17 第10回打合せ 「防災フェスタ準備会」について ○ 教育委員会への働きかけ ○ 参加者募集	
10月		○ 10/1 第11回打合せ 「防災フェスタ最終確認」について ○ マスコミへ取材依頼 ○ 10/29 第12回打合せ 「防災フェスタ準備会」	10/30 防災フェスタ実施
11月		○ 11/12 防災フェスタ反省会	
12月			
2005 1月		○ 1/21 第13回打合せ 「報告書作成」について	報告書作成
2月		○ 2/25 第14回打合せ（予定） 「防災マップ修正」 「次年度の計画」について	

V実践の詳細 【B. イベント】（イベント当日の準備から片付けまでを時系列をおって記入して下さい。）

時間	場所	活動内容	指導者 講師等	使用機材・ 教材等	留意点	参加者の反応・声	苦労した点・工夫した点	スタッフ（団体内・外部）の人数・役割
7:00 8:30 ～	花ノ木小学校 地域～ 花ノ木小学校	地震発生合図（花火打ち上げ） 児童、保護者、地域順民が地域の第1避難場所から一緒に学校まで避難	PTCA会議委員 町内会役員 子ども会委員	花火	学校までの避難経路の安全確認	通学路には、随分危険な場所が多いことがわかった。	地域住民も、親子で一緒に避難していただくように配慮した。そのために、地域住民も避難経路を理解していただくことができた。	当日スタッフ 125名 PTCA会議委員 20名 西尾消防署 10名 市民消防隊 15名 災害ボランティア会議 12名 町内会 18名 婦人会 12名 PTA委員 20名 花ノ木小学校職員 18名
9:30	花ノ木小学校	防災フェスタ開始合図	代表町内会長 PTCA会議座長 西尾消防署		防災訓練の意義説明 防災フェスタの実施要領説明			
10:00	花ノ木小学校 各教室 体育館 運動場	防災講座 ① 防災カルタ ② ハイゼックスを使用しての非常食作り ③ 防災オリエンテーリング ④ 応急手当方法 ⑤ 応急担架の作り方 家具の固定方法 ⑥ 講演	災害ボランティア会議 西尾消防署 市民消防隊 永吉町内会 名古屋大学 飛田教授 花ノ木小学校職員	プロジェクター、スクリーン 防災カルタ ハイゼックス 家具転倒防止装置 地震体験機 被災時に必要なグッズ		地震の恐さがよくわかった。 地震に備えて、できることから準備しておかなければならないと思った。	児童の発達段階に合わせた防災講座になるように工夫した。	○事前準備： 28名 ○安否確認係（受付） 5名 ○案内係 6名 ○防災講座、体験訓練係 94名 ○非常食係 20名
11:00	花ノ木小学校 各教室 体育館 運動場	体験訓練 煙体験 消火器の使い方 起震車による震度体験 プールの水のろ過 家具の固定方法 防災ビデオ 防災パネル展示 等	災害ボランティア会議 西尾消防署 市民消防隊 永吉町内会			いざという時にあわてないように、日頃から訓練をしておくことが大切だと感じた。 これからも、こういう機会を設けてほしい。	多くの人が、いろいろな体験ができるようローテーションを工夫した。	
12:00	花ノ木小学校運動場	非常食体験	災害ボランティア会議			災害時でないときでも、食事をいただく時はこんなに大変だから、中越地方の人々はもっと大変だろう。	一度に多くの人が非常食をもらいに並んだため、行列ができてしまった。	
13:00	花ノ木小学校運動場	防砂フェスタ閉会合図 児童引き取り訓練	PTA会長 消防署 花ノ木小学校職員					
14:00		片づけ						
15:00		反省会						
16:00		終了						

VI 実践後

参加者への アンケート結果	○災害について考えさせられるよいきっかけになりました。 ○災害が続く中、子どもたちと共に学べる防災フェスタは良い企画だったと思います。 ○体育館で、みんなと豚汁を食べていると、なんだか、実際に避難所で食べているようで本当にそうになったら、きっとこんな感じかな、と思いました。 ○地震体験機を体験して、家具、テーブルなどが激しく揺れて転倒したのをみて、地震の恐さを知ると共に、家での準備をしっかりとしなくてはと思った1日でした。	
成果として 得たこと	○PTCAをはじめ協力を依頼した諸団体との連携が強まった。 ○いろいろな団体と連携したお陰で、防災教育に必要なネットワークが広がった。 ○参加した人々の間に、防災意識が高まった。	
成果物	(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。) ○学習指導案 ○参加者アンケート ○案内チラシ ○新聞記事 ○当日配布物	
広報方法	広報した先	○西尾市役所広報室 ○愛三時報社 ○三河新報社 ○朝日小学生新聞 ○中日新聞
	広報の方法	2週間前にFAX、2日前に電話で取材依頼をした。
	取材にきたマスコミ	○愛三時報社 ○三河新報社 ○朝日小学生新聞
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	○ 別添え ○ NHK(1月17日阪神淡路大震災記念番組野中で、出演)
	成功点	○今までの防災に関する取り組みが知られていたため、取材された。 ○電話とFAXの2回依頼したこと。
	失敗点	○地方テレビに取材の依頼をしなかったこと。
全体の感想と 反省・課題	○1500名の参加者を得て防災フェスタを行ったことは成功であったと思っている。高まった防災意識をいかに継続させていくかが今後の課題である。 ○多くの人々が待ち時間ができないよう、体験できる講座を増やしたい。	
今後の予定	来年度以降の進め方	○来年度も10月29日(土)に防災フェスタを実施予定。 ○来年度も総合学習の時間、道徳、学活に防災教育を位置づけて防災教育を推進して行く予定である。
	是非実施してみたい 取り組み	○ 全国各地で行われている、より効果的な防災教育、避難訓練の方法を取り入れ実施したい。